

わんにゃん通信

2021.9月号

まだまだ暑い日が続きますね...コロナウィルスにも熱中症にもお気をつけてお過ごしください！
今回は椎間板ヘルニアのお話です。



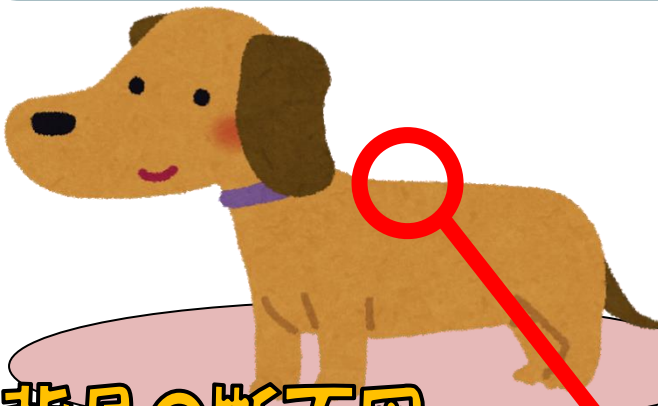
椎間板ヘルニア

©DESIGNALIKE

脊椎(背骨)の間にある椎間板が脊髄(神経)の通っている脊柱管の中に出てきて脊髄を圧迫することによって発症します。

ヘルニアを起こしている部分や脊髄の圧迫している程度によって症状が異なります。

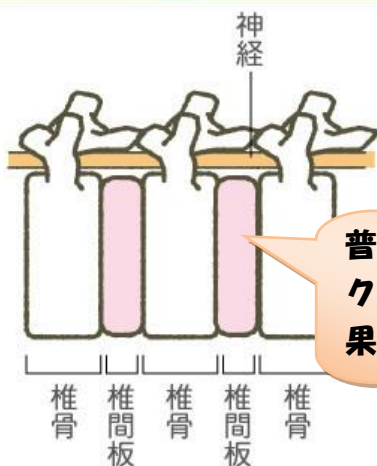
ダックスフンド、シーズー、ビーグル、ペキニーズなどの犬種では発生頻度が高く、特に若齢期から急速に進行する事が多く、それ以外の犬種では加齢に伴い徐々に進行していくことが多いです。



椎間板物質が脱出して脊髄を圧迫しています

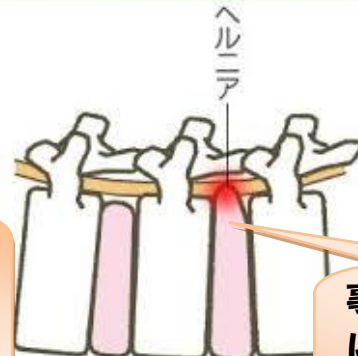
背骨の断面図

通常



普段は力を吸収するクッションの役割を果たしているよ

椎間板ヘルニア発症



事故や加齢によって背骨に加わった力を吸収できずに飛び出してしまうよ！

症状

- ▣ 背中を触る、抱っこをすると痛がる
- ▣ 四肢に少しの麻痺があり、よろけながら歩く
- ▣ 腰が立たず、前足の力だけで後ろ足を引きずって歩く
- ▣ 排泄のコントロールができない
- ▣ 麻痺をした足で痛みを感じない

重症度高

下にいくにつれて重症度が上がるよ



一番下の症状まで進行してしまった場合は時間とともに神経へのダメージが深刻になっていくんだ

治療

症状によって内科療法、外科手術と治療法が変わってきます

内科療法



脊髄の圧迫が軽度であり、歩行可能な場合は安静と鎮痛剤による内科療法を行います。
原因の治療ではないため、再発の可能性があります。

外科手術



脊髄の圧迫が重度であり、歩行不可能な場合は脊髄造影検査をし、圧迫部位を特定したうえで椎間板の除去手術を行います。
脊髄の損傷にもよりますが、術後に歩行可能になるのは7~8割とされています。



はじめは軽い症状でも短時間で重い症状になることがあります。背骨の痛みや四肢の麻痺の症状がみられた場合は、安静にしてなるべく早めご来院ください。

院長から

椎間板ヘルニアは起こりやすい犬種と起こりにくい犬種があります。ダックスが急に両側の後ろ足が麻痺して前足だけで歩いていたら、まず椎間板ヘルニアを疑います。ラブラドルが同様の症状だった場合、または片足だけが麻痺している場合は別の病気を疑います。もしそのような症状であったとしても、椎間板ヘルニアは救急疾患ではないので夜中に救急病院に行く必要はありません。次の日で十分です。しかし、手術に対応している病院を選ぶ必要があります。救急ではないにしろむやみに内科療法をして外科手術を遅らせれば歩けるようになる確率が低くなってしまいます。重症度にもよりますが本院での手術での回復率は70%~90%です。